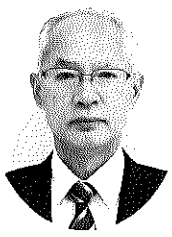
九州海事広報協会会報
No.198
発行所
(公社)九州海事広報協会
北九州市若松区本町1-13-20
洞海港湾労働者福祉センター1階
電話 093-701-7897
FAX 093-701-7898
https://kaijikoho-kyushu.org/

新年を迎えて

公益社団法人 九州海事広報協会
会長 小笠原 朗



令和7年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には平素より格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

当協会では、国民の祝日「海の日」や「海の月間」広報事業、海事思想の普及・宣伝活動、海事知識の啓発や公益事業活動など年間を通して展開し、一人でも多くの方に『「海」を考え、親しみ、大切にする心を育てていただくよう。』取り組みを進めています。

本年は国民の祝日「海の日」が30回目を迎える年であり、改めて「海の日」の制定意義「海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う。」を多くの方に伝えるとともに、次世代を担う青少年が海や港、船で働く仕事を身近に感じることで、その興味、関心を促し、海事産業へ進路の選択肢を広げていただけたらと思っております。

昨年の活動につきましては「第61回中学生海の絵画コンクール」は九州・山口の44校、352点の応募があり、生徒の心温まる絵画作品を門司港、佐世保、鹿児島で展示、多くの方に鑑賞いただきました。

「船との出会い事業」では、多くの海事関係機関・団体や企業のご支援・ご協力をいただき、小・中・高・短期大学生徒、学校教員、海洋少年団を対象に海や港、造船・舶用工業、倉庫、港湾、船舶、船員等の仕事を学ぶ「海事産業見学会」や「海の教室」を開催しました。

併せて、(公財) 日本海事広報協会主催の「全国ビーチウォーク&クリーンアップ大作戦」では、小学生が旅客船体験乗船でふるさとの島に渡り、地元関係者と協同して海岸清掃活動に取り組みました。

また、(一財) 日本モーターボート競走会からの助成を受けて、下関、若松、芦屋、福岡、唐津、大村の各ボートレース場で「日本の海を愛するパネル展」を開催し、多くの来場者に海事知識の普及を図るとともに、ボートレース事業が果たす地域貢献への理解を深めていただいています。

今後ともその任務・役割の達成に邁進していく所存でございますので、会員の皆様並びに関係の皆様方のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、「海の日」に際し、海事功労者等表彰を受けられた方々、企業、団体に対し心から敬意を表しますとともに、海事産業の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭の辞

九州運輸局長
原田 修吾

新春を迎え、謹んで御挨拶申し上げます。

さて、九州運輸局では「運輸と観光で九州の元気を創ります」のキャッチフレーズの下、「持続可能な地域公共交通の実現」、「運輸の安全・安心の確保」、「観光による地域振興」、「人材確保と生産性の向上」という大きく4つの柱の業務を推進しています。この4つの柱に沿って、年頭の抱負を述べさせていただきます。

まずは、「持続可能な地域公共交通の実現」についてです。コロナ禍の収束に伴い旅客需要は回復しているものの、旅客人員はコロナ禍前まで戻らず、また物価高騰や労働力不足の影響もあり、運航事業者の経営状況は依然厳しい状況が続いております。また、九州には生活航路としての離島航路や、都市圏とを結ぶ長距離フェリーや湾内バイパス航路、観光コンテンツとしての遊覧航路など多様な旅客船が地域を支える社会基盤として日々運航されています。

九州運輸局といたしましては、地域が築いてきたネットワークを最大限に活かし、自治体や運航事業者の皆様と連携しながら、国庫補助航路の維持・改善に向けた支援やクルーズ船の振興等につきまして、地域活性化に貢献すべく引き続き取り組んでまいります。

次に、「運輸の安全・安心の確保」についてです。海上交通においては、運航の安全を確保することが大前提であり、事業者への指導・監査を厳格に実施するとともに、令和4年4月に発生した知床遊覧船事故を教訓とする「旅客船の総合的な安全・安心対策」に順次取り組んでいるところです。昨年4月から小型旅客船の船長などに対する「特定操縦免許」、「特定教育訓練」制度が新たに開始され、事業者への周知などその確実な実施に努めてまいりました。本年の施策としては、届出事業の登録制の移行、運航管理者と安全統括管理者の試験制度などが開始されることから、事業者の対応が確実に図られるよう取り組むとともに、無通告監査を積極的に実施するなど、安全・安心対策を着実に推進してまいります。

次に、「観光による地域振興」についてです。着任して以降、九州各地の豊かな自然・食・文化等、様々な魅力溢れる観光コンテンツを体験いたしました。この素晴しい体験を共有いただけるよう、国内外から多くの観光客に訪れていただきたいと考えています。また、受入環境整備に関する支援とともに、この魅力的な観光資源を活用した取組を、地域の皆様と連携しながら一層強力に推進することで、観光による経済効果が持続可能な形で九州全体に行き渡るよう、しっかりと取り組んでまいります。

最後に、「人材確保と生産性の向上」についてです。海事産業全体でも人材不足が課題となっています。このため、海事産業全体の認知度を向上させ、理解を促進させるために、教育委員会や学校、地域の関係者と連携して、小・中学生や先生を対象とした海事産業見学会の実施や海洋教育プログラムの活用を進めるとともに、関係行政機関と連携した「めざせ！海技者セミナー」の実施など、海事産業における次世代人材育成に取り組んでまいります。

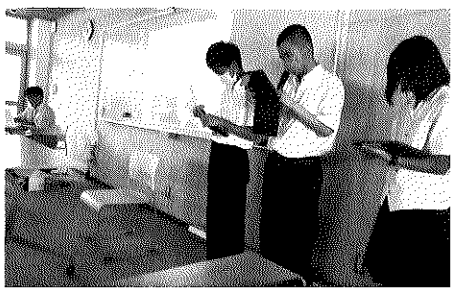
昨年は石破総理が就任し、「地方創生」を重要政策の一つとして掲げています。安全で、持続可能な地域交通の実現、そして観光振興は地方創生にとって重要であると考えており、関係者の皆様としっかりと連携を取りながら、職員一丸となって取り組んでまいる所存です。

結びに、九州の発展と皆様方の御健勝と御多幸をお祈りして、新年の御挨拶といたします。

日本海事センター補助事業
船との出会い事業
海事産業見学会
★ご支援・ご協力をいただきました皆様、大変ありがとうございました。

「船との出会い事業」の取り組み

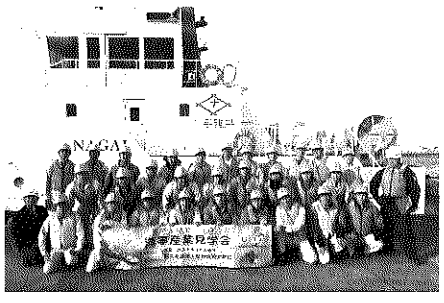
▼9月24日（火）津久見市立津久見中学校1年生121人、教諭5人
・（海事教室）「出前授業、旅客船体験クルージング」
・主催：大分運輸支局、九州海事広報協会
・協力：津久見市、津久見港運協会、津久見地区海運組合、大分県立海洋科学高等学校


出前授業「海・船・魚を学ぶなら海洋科学校へ」

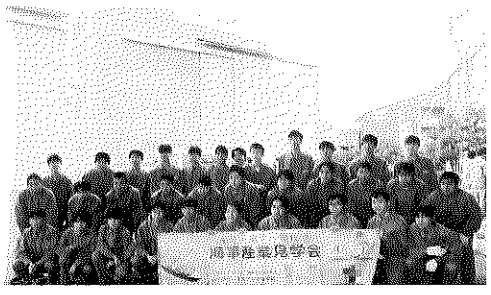
▼10月19日（土）佐伯海洋少年団員6人、保護者1人、指導者3人、事務局1人、大分海洋少年団指導者1人
・（海事教室）「出前授業、旅客船乗船体験」
・主催：大分運輸支局、九州海事広報協会
・協力：国道九四フェリー（株）、鶴崎海陸運輸（株）

佐伯海洋少年団：愛媛県三崎港上陸

▼11月19日（火）国立唐津海上技術短期大学校航海専科1年生30人、教諭3人
・（海事教室）「舶用工業見学」「造船所見学」「タグボート船内見学」
・主催：佐賀運輸支局、九州海事広報協会
・清本鉄工（株）、（株）名村造船所伊万里事業所、（株）奈雅井


タグボート前：集合写真

▼12月5日（木）山口県立下関工科高等学校機械工学科　1年生69人、教諭4人
・（海事教室）「フェリー船内見学、造船所見学、造船資料館見学」
・主催：下関海事事務所、九州海事広報協会
・協力：関釜フェリー（株）、三菱重工業（株）下関造船所


三菱重工業（株）下関造船所：集合写真

▼12月16日（月）北九州市立枝光小学校5年生24人、教諭2人
・（海事教室）「コンテナターミナル見学」「フェリー船内見学」「造船所見学」
・主催：福岡運輸支局門司港庁舎、九州海事広報協会
・東京九州フェリー（株）、（一社）北九州港振興協会、旭洋造船（株）

東京九州フェリー㈱船内見学

海事広報イベント

「大分みなとまつり」（大分市大在地区）

11月4日（月・祝）に大分港で「大分みなとまつり」が開催され多くの方が来場しました。大分運輸支局は海事産業の役割やクルーズ船の魅力などのPRを行うイベントブースを出展しました。当日は海事関係団体の内航海運組合総連合会、九州地方海運組合連合会、日本水先人会連合会、（一財）海技振興センター、（公財）日本海事広報協会、（一社）日本外航旅客船協会からご提供のパンフレット（水先人、ぼくと私のシップガイド）、グッズ（マルクンカレー、ペーパークラフトコンテナ船）等を来場者に配布して、海や港の仕事、海事産業の役割、海の交通安全、クルーズ船の魅力などを学んでいただきました。

賑わう大分運輸支局展示ブース

第61回 中学生海の絵画コンクール（九州・山口地区）に入選して

《金賞》「船着場の風景」

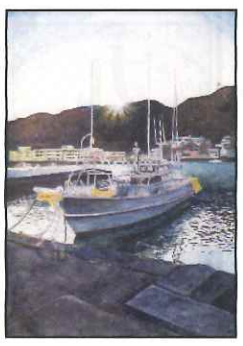
佐世保市立
福石中学校
上野　結布花　3年　さん

この度は、「中学生海の絵画コンクール」におきましてこのような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。私はこのコンクールに出品するのは三度目なのですが、中学生最後に金賞を受賞でき、とても嬉しいです。

この作品は、今まで出品した作品の中でも特に細かい部分が多く、とても苦戦しました。船の柵やクレーン車が細かく、うまく表現するのに手こずりました。また、地面や波の模様もかなり細かく、違和感をださないように工夫しました。細かい部分が多いのもこの作品の魅力なんですが、コントラストもこの作品の魅力だと思っています。

初めて出品したときはまさか自分が金賞を受賞するとは思ってもみませんでした。今でも信じられません。金賞を受賞できたのは手厚く指導してくださった顧問の先生、支えてくれた家族、友達のおかげです。これからも努力し、たくさんの作品を描いていきたいと思います。

《銀賞》「海」



佐世保市立
福石中学校
岩永　梨央　2年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において銀賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

去年、このコンクールに作品を出品したときは佳作だったので今年は銅賞以上を目指して、去年よりも良い結果がでるように頑張って描いた作品だったので銀賞と聞いたとき、とても嬉しい気持ちや驚きがありました。

この作品は背景が細かいので下書きのとき絵の具をぬるのに苦戦しないように細かく描くことを意識して描きました。この作品は全体的に青いので明暗の差をつけ、ぼんやりした絵にならないように気をつけました。ほかに波の部分は、波の光り方や、影をよく観察し細かく描きました。

私がこの賞を受賞することができたのは、たくさんのアドバイスをくださった先生や、友達の支えがあってこそです。これからも、さらに上を目指し、努力していきます。

この度は本当にありがとうございました。

《銀賞》
「一日の始まり」

鹿児島市立
東谷山中学校
大野　冬華　3年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」におきまして銀賞という素晴らしい賞を頂き大変嬉しく思います。私は前回もこのコンクールに出品し銅賞だったので、今回は銀賞を獲ることができてとても嬉しい気持ちになりました。

この作品では船の列をはさんで水面の光と影の差が大きく、描くのが大変でした。ところどころに補色関係の色を使ってみたり、写真には写っていない雲を描いたりして、より魅力的な絵になるように工夫してみました。

この作品で一番苦労したのが、手前の右側にある縄です。複雑な構造になっていて、最初描いた時は不自然になってしまい、何度も試行錯誤しながら仕上げました。

この賞を受賞することができたのは、先生方からのアドバイスや友達の応援の声などの支えがあったからだと思います。これからもこの経験を活かして楽しく絵が描けるようにしたいです。今回は本当にありがとうございました。

《銀賞》
「Carry a dream」

姶良市立
重富中学校
早川　うららさん　3年

この度は、中学生「海の絵画コンクール」におきまして、銀賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

私はこの作品に長い時間を費やしたので、銀賞という結果を聞いたとき、とてもうれしい気持ちで胸がいっぱいになりました。この作品は特に遠くに見える街の風景と海に反射する船の質感にこだわって描きました。たくさんの小さな車や家、山など、細かいところを筆の先を使って表現するところに苦労しました。また海の色は、濃淡を意識し、青だけでなく赤や黄色と様々な色を工夫して重ねて塗り、海の透明感をうまく出すことができました。

この賞を受賞することができたのは、美術部の顧問の先生や友達、家族の支えがあったからこそだと思います。今回の経験で最後まであきらめないことの大切さを学んだので、これからもいろいろな場面で納得のいくまで頑張っていきたいです。

《銅賞》
「神光」

宗像市立
城山中学校
田中　麻子　3年　さん

今回、「中学生海の絵画コンクール」におきまして、このようなすばらしい賞いただきありがとうございます。この作品は中学校部活動の集大成として制作した絵画作品だったので賞をとることができて、とてもうれしいです。

この作品は、私のうまれ故郷である、宗像の祭りである「みあれ祭」の風景を描きました。初めて「みあれ祭」に行った時に、たくさんの船が、大きな旗をかかげて、大島からこちらへ向かってきているその風景がとても美しく、とても心に残っています。宗像の海はすきとおっており、旗のあざやかな色が海に反射して、色とりどりになっています。その風景をぜひ、みなさんも見てほしいなと思います。

これからも自分の表現力を高められるよういろいろな絵をかきつづけたいとおもいます。

《銅賞》「夜の日本丸」

佐世保市立
福石中学校
石井　結菜　2年　さん

この度は、「中学生海の絵画コンクール」において、銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

私は、中学生になり初めてこのコンクールに出品したので悩むことばかりでしたが、銀賞という結果が聞けてとても嬉しかったです。

この作品は、夜の船をイメージして描きました。とくに頑張ったところは、光の部分です。まず彩度の高い色から順に塗り、輪郭をぼかして周りに黄色などの明るい色を入れて表現しました。また、影の部分は立体感を出すために何度も色を重ねました。

この賞を受賞することができたのは、顧問の先生や友達の支えがあったからだと思います。これからも努力して絵を描いていきたいです。本当にありがとうございました。

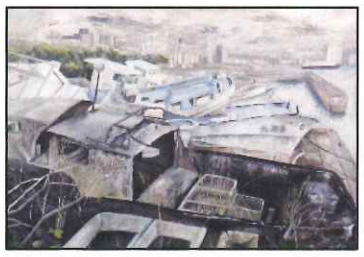
《銅賞》
「秋は夕暮れ」

鹿児島市立
東谷山中学校
橋本　志郎　3年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において銅賞という素晴らしい賞をいただきとても嬉しく思います。昨年もこのコンクールに出品させていただいたのですが、その時は自分が目指していた結果に結びつかず悔しい思いをしました。そのため、3年間の集大成となるこの作品で銅賞という結果になってとても嬉しい気持ちになりました。

この作品では、橙の夕焼けの影に補色関係にあたる青を使い、パッと目を引くように描きました。他にも中央の船だけでなく背景の街並みにもこだわって描きました。大きなコンクリート造りの建物、木造の二階建てや平屋など様々な建造物を単調にならないよう塗り分け、電柱や電線などにも光を乗せるなど色や光を工夫しました。

今回の作品でこの賞を受賞することができたのは、たくさんのアドバイスをくださった顧問の先生方や、一緒に切磋琢磨してきた部活の仲間たちのお陰だと思います。これからもこの経験を活かし、更に良い作品を描けるよう努力したいです。この度は本当にありがとうございました。



《銅賞》
「凍える」

鹿児島市立
東谷山中学校
野平　彩花　3年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思います。このような大きな賞を獲ることできたのは中学校に入って初めてでした。私はこのコンクールで賞を獲りたくて、モチーフとなる写真を撮るところからこだわりました。港周辺を何度も行き来している時に撮った写真が、構図と雰囲気がとても良かったので「描こう」という気持ちが高まりました。

制作の中で一番意識したことは「もの悲しさを彷彿とさせる冷たさ」です。モチーフである廃棄された船たちが画に映えるように工夫したり、色彩感覚を限界まで研ぎ澄ましてい写真通りではない「絵」を創り出すことを意識しました。

私がこの賞を獲ることができたのは、一生懸命アドバイスをくださった顧問の先生方、お互いに学び合うことができた部活の仲間たち、支えてくれた両親のおかげです。部活は引退しましたが、これからも立派な作品を作れるように精一杯頑張っていきたいです。

《銅賞》「嵐の前に」

鹿児島市立
東谷山中学校
一野　愛莉　2年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」におきまして銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

この作品は細部に渡り色使いを工夫しました。雲や船の影の部分に緑や青を使い、夏らしい爽やかな感じを出しました。空の色にグラデーションを付けることで迫力が伝わるよう演出しました。船の反射している感じが出せるように細かい線とにじみをうまく利用し、遠くから離れて見たりしてバランスに気を遣いました。

この賞を受賞することができたのは、顧問の先生や先輩方からのアドバイスを頂いたことや同級生の支えがあったからだと思います。これからもこの結果を励みに、よりよい作品が描けるよう努力していこうと思います。この度は本当にありがとうございました。

《銅賞》
「支度」

霧島市立
日当山中学校
田代　雫　3年　さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において、銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

私は去年もこのコンクールに出品しました。去年の結果は佳作でした。それでもうれしいのですが、今回は銅賞と聞き、驚きました。そして今回の作品は、美術部の活動の集大成として描いた作品なので、銅賞をとることができとてもうれしく思います。

この作品は、船の細かいところや明暗をはっきりさせるよう気をつけて描きました。この船を描くと決めた時、下描きから色塗りまで、細かすぎて何回も諦めかけました。ですが、美術部の同級生や後輩、顧問の先生からの支えがあり、最後まで諦めず細かいところまで色をのせ、完成させることができました。今回の賞を励みに、よりよい作品、そして自分好みの絵が描けるよう、努力していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

「九州海事広報協会ホームページについて」

九州海事広報協会HP（https://kaijikoho-kyushu.org）に活動内容、海の日絵画展受賞作品などを掲載してますので、どうぞご覧ください。

九州海事広報協会

謹賀新年

本年もご支援のほどよろしくお願い申し上げます
令和七年　元旦

公益社団法人
九州海事広報協会

会長　小笠原一朗
副会長　伊東同
副会長　辰元隆純
理事　鹿毛幸一郎
監事　一
事務局　一同